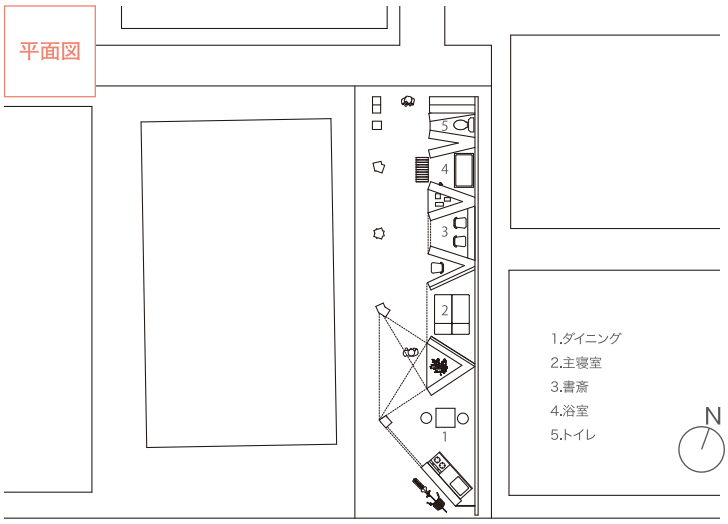
学生部門

審査委員特別賞

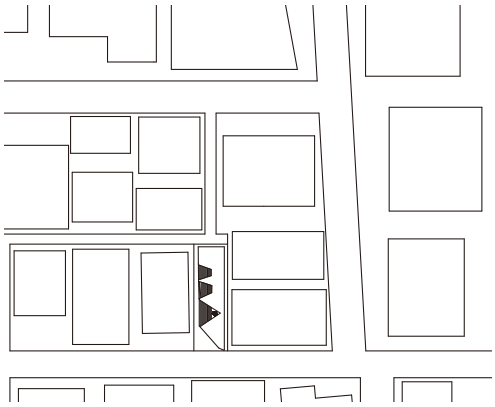
岡田 直樹
広島工業大学

【作品名】
路地の住み家
～フラクタルなボリュームが生む隙間と連続性～

平面図



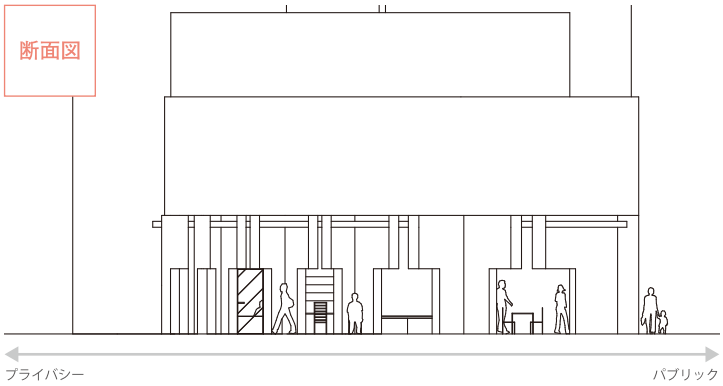
配置図



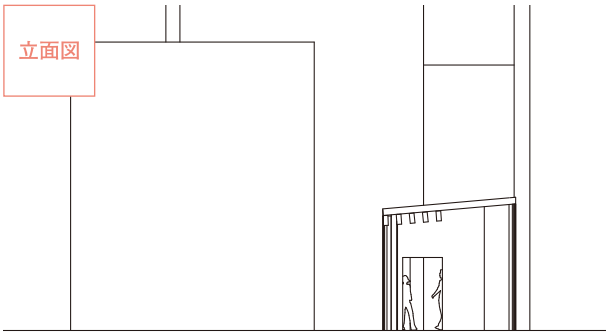
計画地

敷地は東京都にある道幅4m以下の密集住宅地である。北側には1.5mの小路があり、周辺は詰め込まれたかのように建物が建っている。

断面図



立面図



北から南へ向けてパブリックな空間となる。

つながる壁・生まれる隙間

異常なまでの雑多な空間に包まれた環境と北側の小路を活かすために、南側に向けて壁の角度を変えながら開いていく案を提案する。そこに、抜け道を作る。すると大小のフラクタルな空間が繋がりながら、互いに共存しあう空間が生まれた。そこでは都市のカオスと住戸が相まって、路地のようでそうではない不思議な空間を作り出している。

雑多な風景

都市において路地の中は人の生活であふれており、住むこととは何かを考えさせられる場である。

設計コンセプト

都心に住むということのもっとも異常な、そして豊かな質とは何かと考えると、それは、いろいろな“モノ”が集まりごちゃごちゃしていることだと思う。それらは、異なるモノ同士がくっついたり離れたりすることで、異なる風景を作り出し、互いに共存することで、豊かな空間を生み出す。そこには、住戸と住戸のわずかな隙間や路地空間が広がる。路の風景を壊さずに雑多な都市の形式を住空間へ取り込むことで、従来の画一的な注文住宅から脱却し、新しい都市の住空間の原形となるだろう。

敷地は道幅4m以下の密集住宅地のとある路地であり、都市における特徴的な土地で住宅を再構築することを考えた。ここでは、壁を常に角度をつけながら南側に向けて開いていく方法を提案する。まるでバネのように伸びた壁たちは、角度がめちゃくちゃになっている。すると、その隙間に、路とも庭とも部屋とも区別のつかない新しい質の空間が生まれる。それらは抑揚のある路であり、住戸と外部との視線をコントロールし、独特な奥行をもった風景を作り出す。この壁が作り出す風景こそが都市の姿であり、多様性に富んでいることを示している。それらの雑多さが豊かな空間となるだろう。
この独特の平面系によって作り出された空間たちは、それぞれに異なる性質をもちながら、南北へ抜ける路でつながる。
そこに一体感が生まれ、お互いに共存しながらのびのびとした愉しい住まいを獲得している。
これらの要素が互いに共存することで外部と内部の新しい関係や住まい方を根本的に変える、都心の新しい住まい方として改めて提案したい。

審査委員講評

コンクリートで武装した21世紀の路地空間が作りだす風景とは、きっと「下町情緒あふれる」という表現では説明できないものになるでしょう。建物に沿って並んだ鉢植えのわきをネコがのんびり散歩する図は想像できません。